

資料編

1. アクションプランの成果と総括
2. 弘前市が持つ地域資源
3. 弘前市経営計画の策定体制
 - 新しい弘前市総合計画策定市民会議
 - 弘前市総合計画審議会
 - 弘前市総合計画策定会議
4. 新しい弘前市総合計画策定市民会議提言書

1. アクションプランの成果と総括

■ これまでの取り組みの総括

アクションプランは、PDCAサイクルによるマネジメントシステムを構築して、常に市民と関わりながら進行管理を行い、毎年度、社会環境の変化や多様な市民ニーズ、進行状況の評価・点検を的確に実施し、それらの要素を踏まえて改訂することで「進化・成長」する、戦略的かつ機動的な実行計画として運用してきました。

4年間で2回の改訂を実施し、平成24年3月に『アクションプラン2012』、平成25年3月に『アクションプラン2013』を策定して、取組内容の追加・拡充等を行いました。

『アクションプラン2013』では、それまでの取り組みを踏まえ、「子育て」「健康」「雪対策」を市の最重要課題に位置付け、長期的・戦略的に取り組むため『エボリューション3』をプランに新設しました。

■ 弘前市アクションプラン「7つの約束」

約束1〔市民主権システムを実現します〕

めざす姿：市民と行政の情報共有・対話が促進され、市民が主体のまちづくりが進められています。

指標名	取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値 ※()書きは「わからない」の回答を除いた場合				H24 目標値に対する達成率	H25 目標値に対する達成率
				H22	H23	H24	H25		
① 市民と行政が同じ目的を持ちパートナーとしてまちづくりに取り組んでいると思う市民を増やします。	市民評価アンケート	%	13.0	15.0	20.0	22.0	25.0	○	○
				20.9	31.7	28.7	—		
② 市民参加型まちづくり100事業を指します。	業務取得	件	—	—	100	100	100	×	—
				—	23	43	—		
③ 「市長車座ミーティング」、「わたしのアイデアポスト」、「市政懇談会」など市民から広く意見を聞く広聴活動に満足している市民を増やします。	市民評価アンケート	%	61.3	64.0	66.0	68.0	70.0	○	○
				49.7 ※(63.7)	71.5 ※(89.1)	71.3 ※(88.5)	—		
④ 広聴事業への参加者数を増やします。	業務取得	人	5,120	—	—	5,644	5,617	○	○
				5,551	4,607	5,655	—		
⑤ 「広報ひろさき」、「市ホームページ」など市民に広く市政情報を提供する広報活動に満足している市民を増やします。	市民評価アンケート	%	73	74.0	75.0	76.0	77.0	○	○
				68.5 ※(74.3)	83.2 ※(86.5)	84.3 ※(88.2)	—		
⑥ 公募可能な審議会等における公募実施割合100%を目指します。	業務取得	%	19	—	—	100	100	○	○
				30.0	56.0	100.0	—		
⑦ 町会や公民館、地区社協などの地域活動に参加している市民を増やします。	市民評価アンケート	%	28.1	29.0	30.0	32.0	33.0	○	○
				33.6	33.4	33.8	—		

※ 凡例 H24 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない —:判断できない
H25 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み —:目標を達成できない・判断できない
※ 平成25年度弘前市アクションプラン自己評価報告書より

<取組状況>

平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が6項目、「目標を達成できない」が1項目となっており、進んでいると判断できます。

総合的に勘案すると、めざす姿の前段部分の「市民と行政の情報共有・対話が促進され、」については順調に推移していると評価できますが、後段部分の「市民が主体のまちづくりが進められています。」については遅れていると評価せざるを得ません。

<今後の取り組みの方向性>

今後は、「オール弘前体制」による市民と行政の情報共有・対話を促進させ、市民が主体のまちづくりが進められるよう、市民が活用しやすい「市民参加型まちづくり1%システム」への再構築や「自治基本条例」の制定など各施策に取り組んでいきます。

約束2－(1)〔農業振興〕

めざす姿：安全・安心な農産物の生産が拡大し、農業所得が向上します。

指標名	取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24 目標値に 対する 達成率	H25 目標値に 対する 達成率
				H22	H23	H24	H25		
① りんご販売額 360 億円を目指します。	業務取得	億円	330	—	—	344	360	—	—
				338.14	336.87	—	—		
② 農業生産法人数(累計) 36 団体を 目指します。	業務取得	団体	27	27	30	33	36	×	—
				29	30	32	—		
③ 集落営農組織数(累計) 35 組織を 目指します。	業務取得	組織	26	26	29	32	35	○	—
				27	31	33	—		
④ 果樹共済加入率 45.7%を目指 します。	業務取得	%	33.6	34.9	36.8	41.1	45.7	×	—
				34.9	36.8	38.7	—		
⑤ わい化栽培率 20.0%を目指 します。	業務取得	%	16.4	17.8	18.6	19.5	20.0	×	—
				16.9	17.7	18.2	—		
⑥ りんご海外輸出量 30,000 トン(青森 県産)を目指 します。	業務取得	トン/ 年	20,028	22,521	25,014	27,507	30,000	×	—
				21,480	16,146	8,880	—		
⑦ 主要農産物直売所 の販売金額 16.97 億円を 目指 します。	業務取得	億円	15,7894	16,0800	16,3800	16,6800	16,9700	×	—
				16,1415	16,6151	15,7204	—		

※ 凡例 H24 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない —:判断できない
H25 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み —:目標を達成できない・判断できない
※ 平成 25 年度弘前市アクションプラン自己評価報告書より

<取組状況>

平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が1項目、「目標を達成できない」が5項目、「判断できない」が1項目となっており、達成率は高いといえない状況にあります。

総合的に勘案すると、震災前に設定した目標には届いてない状況となっております。しかしながら、「弘前産りんごの消費拡大のための全国10か所における大規模なキャンペーン」の開催や、「集落営農の組織化・法人化」、「農商工連携の推進」など、戦略的な取り組みの展開により、農業所得の向上に確実に結びついており、めざす姿に向け上昇基調にあります。

<今後の取り組みの方向性>

今後は、国による「成長戦略による農業強化策」を最大限に活かしながら、「りんご販売額の増収」や「農業経営の安定化」など各施策に取り組んでいきます。

約束2-(2)〔観光振興〕

めざす姿：東北新幹線新青森駅開業や弘前城築城400年祭などを契機に、交流人口が増加することによって、観光関連産業が活性化し、雇用拡大が図られます。

指標名	取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24 目標値に 対する 達成率	H25 目標値に 対する 達成率
				H22	H23	H24	H25		
① 観光入込客数 500万人を 目指します。(約10%増)	業務 取得	万人	455.1	—	—	450.0	500.0	○	—
				455.1	413.8	450.8	—		
行祭事・イベント観光入込客 数 550万人を目指します。 (約13%増)	業務 取得	万人	485.3	—	—	490	550	×	—
				485.3	459.1	437.5	—		
② 宿泊者数 42万人を目指し ます。(約27%増)	業務 取得	万人	33	—	—	36	42	×	—
				33	32.9	33.4	—		
【参考】AP2013 指標 宿泊者数 65万人を目指し ます。(約27%増)	業務 取得	万人	51	—	—	—	65	/	/
				51.4	50.6	52.5	—		
③ 観光消費による経済波及効 果額 530億円を目指し ます。(30%増)	業務 取得	億円	408.07	—	480.00	480.00	530.00	—	—
				—	—	—	—		
④ 外国人宿泊者数 6,400人 を目指します。(約77%増) ※括弧書きは「東アジア圏 (中国、韓国、台湾)宿泊者 数」	業務 取得	人	3,620	—	—	4,800	6,400	×	—
				3,620 ※(1,473)	1,904 ※(1,070)	3,278 ※(1,708)	—		
⑤ 県内外物産展売上額 3億円 を目指します。(29.3%増)	業務 取得	億円	2.32	2.4	2.6	2.8	3	×	—
				2.35	2.05	2.00	—		

※ 凡例 H24 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない —:判断できない
H25 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み —:目標を達成できない・判断できない
※ 平成25年度弘前市アクションプラン自己評価報告書より

<取組状況>

平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が1項目、「目標を達成できない」が4項目となっており、達成率は高いといえない状況にあります。

総合的に勘案すると、東日本大震災前に設定した目標には届いてない状況となっております。しかしながら、「まち歩きを中心とした着地型観光の充実」、「インバウンド対策の強化」、「広域観光の推進」などの取り組みを行ってきた結果、目標とした数値には届かなかったものの東日本大震災前の水準に回復することができ、観光入込客数の増加に確実に結びついており、めざす姿に向け上昇基調にあります。

<今後の取り組みの方向性>

今後は、社会状況の変化に的確に対応しながら、観光関連産業の活性化及び雇用の創出を図るため、「北海道新幹線新函館開業」へ向けた誘客施策や「物産の販売力強化による消費単価を増加させる取り組み」など各施策に取り組んでいきます。

約束2－(3)〔商工業振興〕

めざす姿：にぎわい創出による商業・サービス業の活性化と、地域資源を活かした工業の振興により、雇用拡大が図られます。

指標名	取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24 目標値に 対する 達成率	H25 目標値に 対する 達成率
				H22	H23	H24	H25		
① 施策の取り組みによる新規雇用(累計) 391人を目指します。	業務取得	人	0	－	－	347	391	○	－
				100	281	388	－		
② 農商工連携等振興施策の展開による商品化数(累計) 34件を目指します。	業務取得	件	0	－	－	24	34	○	○
				4	30	48	－		
③ 技術開発等支援件数(累計) 20件を目指します。	業務取得	件	0	－	－	16	20	○	－
				6	11	17	－		
④ 起業化支援施策の展開による起業家創出数(累計) 15人を目指します。	業務取得	人	0	2	6	10	15	○	－
				2	7	10	－		
⑤ 中心商店街空き店舗率 8.5%を目指します。	業務取得	%	12.8	11.7	10.7	9.6	8.5	○	－
				12.0	12.0	9.6	－		
⑥ 誘致企業における従業員数 5,560人を目指します。	業務取得	人	5,503	－	－	5,540	5,560	○	－
				5,503	5,750	5,580	－		

※ 凡例 H24 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない ー:判断できない
H25 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み ー:目標を達成できない・判断できない
※ 平成25年度弘前市アクションプラン自己評価報告書より

<取組状況>

平成24年度の目標値に対する達成率は、すべての項目において「目標を達成済み」となっています。

総合的に勘案すると、地域経済は、先行きに不透明感がうかがわれ、依然として厳しい状況に

あるものの、「地域資源を活かした商品開発や創業などへの支援」により、意欲的な取り組みは着実に増えてきているとともに、めざす姿に向け着実に近づいていると考えます。

＜今後の取り組みの方向性＞

今後は、雇用の安定と確保の受け皿となる「企業誘致や仕事おこし」、「市内中小事業者を下支えするための制度金融の充実や経営の改善」など、各施策に取り組んでいきます。

約束3－(1)〔生活環境〕

めざす姿：地域資源・資産の効果的な活用によるまちづくりや住環境の整備を進め、市民が暮らしやすい魅力あるまちになっています。

指標名	取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24 目標値に対する 達成率	H25 目標値に対する 達成率
				H22	H23	H24	H25		
① 弘前の景観に魅力を感じる市民を増やします。	市民評価アンケート	%	-	-	-	53.4	54.4	×	-
				51.4	51.9	52.9	-		
② 中心市街地活性化基本計画に掲げる目標指標 中心市街地歩行者・自転車通行量（平日・休日の平均）25,000人を目指します。	業務取得	人	18,018	18,500	20,500	22,500	25,000	×	-
				18,226	19,119	18,245	-		
③ 計画的に側溝整備を進めて、道路利用者の安全確保と良好な道路環境の維持を図ります。側溝整備延長(m)	業務取得	m	3,710	-	-	12,726	16,176	○	-
				6,835	9,627	13,079	-		
④ 「伝統的建造物群保存地区」である仲町地区電線類の地中化を進めて、安全かつ円滑な道路交通の確保と、歴史的街並みの保全や景観向上を図ります。無電柱化整備延長(m)	業務取得	m	100	-	-	870	1,210	×	-
				100	330	830	-		
⑤ 安全・安心な生活環境だと思う市民を増やします。	市民評価アンケート	%	-	-	-	25.0	28.0	○	-
				23.1	24.6	26.5			
⑥ 持続可能な公共交通体系を構築するため、公共交通路線の見直しを実施します。 H23 計画策定を踏まえ、H24 において目標値を設定	業務取得	-	-	-	-	-	-	-	-
				-	-	-	-		
【参考】AP2013 指標 持続可能な公共交通体系を構築するため、公共交通路線の見直しを実施します。	業務取得	路線	-	-	-	-	2	/	/
				-	-	1	-		

※ 凡例 H24 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない -:判断できない
H25 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み -:目標を達成できない・判断できない
※ 平成 25 年度弘前市アクションプラン自己評価報告書より

＜取組状況＞

平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が2項目、「目標を達成できない」が3項目、「判断できない」が1項目となっており、達成率は高いとはいえない状況にあります。

総合的に勘案すると、数値目標は一部目標を下回っているものの、各施策等の取り組みに一定の成果が見られることから、めざす姿に向けてはおおむね順調に推移していると考えます。

＜今後の取り組みの方向性＞

今後は、さらに市民が暮らしやすい、魅力あるまちにするために、「雪対策」や「中心市街地の賑わい創出」など、各施策に取り組んでいきます。

約束3－（2）〔防災、環境・再生可能エネルギー〕

めざす姿：災害に強く、市民が暮らしやすい魅力ある低炭素・循環型のまちになっています。

指標名	取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24 目標値に 対する 達成率	H25 目標値に 対する 達成率
				H22	H23	H24	H25		
① 自主防災組織結成率（世帯比率）を20%に高めます。	業務取得	%	7	—	—	12.0	20.0	×	—
				7.9	8.9	9.5			
② 災害に対応した備蓄体制の整備を進めます。防災アセスメントによりH24の基準値取得後に目標値を設定 【参考】AP2013 指標地震や台風などに対する総合的な防災体制について満足している市民の割合を増やします。	業務取得	%	—	—	—	—	—	—	—
				—	—	—	—		
③ 安全・安心な生活環境だと思いう市民を増やします。	市民評価アンケート	%	9.7	—	—	—	15.0	/	/
				9.7	13.5	14.7	--		
④ リサイクル率 14.9%を目指します。 ※23 年度現状値は環境省が公表する「一般廃棄物処理事業実態調査」公表値、24 年度現状値は同調査の速報値	業務取得	%	8.7	—	—	25.0	28.0	○	—
				23.1	24.6	26.5	—		
⑤ 新エネルギーを導入した公共施設数8施設を目指します。	業務取得	施設	0	0	2	6	8	○	—
				0	3	6	—		
【参考】 AP2013 指標 再生可能エネルギーを導入した公共施設数16施設を目指します。	業務取得	施設	0	0	2	6	16	/	/
				0	3	6	—		
⑥ 新エネルギー・省エネルギーの補助制度による一般住宅への導入を推進します。目標年100件。	業務取得	件	0	—	—	100	100	×	—
				0	0	73	—		
【参考】 AP2013 指標 再生可能エネルギー・省エネルギーの補助制度による一般住宅への導入を推進します。目標年55件。	業務取得	件	0	—	—	—	55	/	/
				—	—	72	—		

※ 凡例 H24 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない ー:判断できない
H25 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み ー:目標を達成できない・判断できない
※ 平成 25 年度弘前市アクションプラン自己評価報告書より

＜取組状況＞

平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が2項目、「目標を達成できない」が3項目となっており、達成率は高いといえない状況にあります。

総合的に勘案すると、「安全・安心な生活環境だと思いう市民の割合」と「新エネルギーを導入した公共施設数」は目標を達成していますが、「自主防災組織結成率」など目標を達成することができなかったものが過半数を占めるため、めざす姿に向けては遅れていると考えます。

＜今後の取り組みの方向性＞

今後は、市民が暮らしやすい魅力ある低炭素・循環型のまちづくりに向けて、「生ごみの減量化を進める新たな取り組み」や「住宅敷地内融雪と組み合わせた再生可能エネルギーの導入」など、各施策に取り組んでいきます。

約束4－（１）〔子育て〕

めざす姿：子育てに適した環境が整って、安心して子どもを産み、元気に育てることができ、子ども達の笑顔があふれています。

指標名	取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24 目標値に 対する 達成率	H25 目標値に 対する 達成率
				H22	H23	H24	H25		
① 合計特殊出生率 1.30 を目指します。 (市町村別合計特殊出生率(5年毎に公表)の次回公表予定:平成25年度)	人口動態統計市町村合計特殊出生率	-	1.19	-	-	-	1.30	-	-
				-	-	-	-		
【参考】AP2013 指標 子育て支援サービスに満足している市民を増やします。	市民評価アンケート	%	27.2	-	-	-	30.0	/	/
				-	-	23.6	-		
② 保育所待機児童数 0 人を維持します。 ※産休・育休明け、年度途中就労による入所基準を改善します。	業務取得	人	0	0	0	0	0	○	○
				0	0	0	-		
③ 放課後待機児童数 0 人を目指します。	業務取得	人	15	0	0	0	0	○	○
				0	0	0	-		
④ 放課後児童健全育成事業に満足している市民を増やします。	市民評価アンケート	%	29.5	-	-	40.0	45.0	×	-
				29.5	31.8	28.8	-		
【参考】AP2013 指標 放課後児童健全育成事業に満足している市民を増やします。 ※実績値を修正(「わからない」又は「無回答」を除いて再設定)	市民評価アンケート	%	35.2	-	-	40.0	45.0	/	/
				35.2	41.6	35.6	-		
⑤ 子育て支援や相談体制が整っていると思う市民を増やします。	市民評価アンケート	%	25.3	-	-	35.0	40.0	×	-
				25.3	24.5	25.2	-		
⑥ 青少年の健全育成活動(子ども会等を含む)に参加したことがある市民を増やします。	市民評価アンケート	%	15.6	16.0	17.0	18.5	23.0	○	○
				20.3	24.1	25.3	-		

※ 凡例 H24 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない -:判断できない
H25 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み -:目標を達成できない・判断できない
※ 平成25年度弘前市アクションプラン自己評価報告書より

<取組状況>

平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が3項目、「目標を達成できない」が2項目、「判断できない」が1項目となっており、一定程度進んでいると判断できます。

総合的に勘案すると、県内市部初となる、「満18歳までの入院費無料」や「小中学校での学級給食食物アレルギー対応食提供」など様々な施策を進めていますが、めざす姿に向けては遅れていると考えます。

<今後の取り組みの方向性>

今後は、子育てするなら弘前につながる「市民ニーズを的確に捉えた児童の健全育成」や、「子育て支援や相談体制の充実」など、各施策に取り組んでいきます。

約束4－(2)〔人づくり〕

めざす姿：次代を担う子ども達の才能が育成され、地域の伝統や文化を誇りに思い、継承する人材が育っています。

指標名	取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値 ※()書きは「わからない」の回答を除いた場合				H24 目標値に 対する 達成率	H25 目標値に 対する 達成率
				H22	H23	H24	H25		
① 青森県学習状況調査における通過率順位 3位以内を目指します。小学5年生(国・社・算・理)	青森県学習状況調査	位	7	6	5	4	3	×	-
				6	11	9	-		
② 青森県学習状況調査における通過率順位 3位以内を目指します。中学2年生(国・社・数・理・英)	青森県学習状況調査	位	5	5	5	4	3	×	-
				7	6	8	-		
③ 青森県学習状況調査における学習意欲の向上や学習内容の定着度を示す割合の増加を目指します。小学5年生「勉強が好きだ」	青森県学習状況調査	%	70.6	72.0	74.0	77.0	80.0	×	-
				-	71.8	68.2	-		
④ 青森県学習状況調査における学習意欲の向上や学習内容の定着度を示す割合の増加を目指します。中学2年生「勉強が好きだ」	青森県学習状況調査	%	54.0	55.0	56.0	58.0	60.0	×	-
				-	58.6	53.2	-		
⑤ 小学校で33人学級を実施している学年の割合 83.3%を目指します。	業務取得	%	33.3	-	-	66.6	83.3	○	-
				33.3	50.0	66.6	-		
⑥ スポーツ全国大会・東北大会参加件数 56件を目指します。	業務取得	件	52	53	54	55	56	○	○
				60	68	94	-		
⑦ 文化活動に関する全国大会・東北大会参加件数 7件を目指します。	業務取得	件	5	5	5	6	7	×	-
				4	3	3	-		
⑧ 市の文化の豊かさに満足している市民を増やします。	市民評価アンケート	%	84.5	85.0	87.0	89.0	90.0	○	-
				80.7 ※(87.5)	81.1 ※(88.5)	81.7 ※(89.9)	-		
⑨ 文化・芸術活動をしている市民を増やします。	市民評価アンケート	%	12.1	13.0	15.0	20.0	25.0	○	-
				24.7	24.5	20.7	-		
⑩ スポーツ、レクリエーションをしている市民(月1回以上)を増やします。	市民評価アンケート	%	25.0	26.0	27.5	37.0	40.0	×	-
				34.9	35.6	35.2	-		

※ 凡例 H24 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない -:判断できない
H25 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み -:目標を達成できない・判断できない
※ 平成25年度弘前市アクションプラン自己評価報告書より

＜取組状況＞

平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が4項目、「目標を達成できない」が6項目となっており、達成率は高くない状況となっています。

総合的に勘案すると、文化・芸術活動やスポーツ・レクリエーション活動等については、おおむね順調ですが、小中学生の学力及び学習意欲の向上や学習内容の定着について、様々な施策を進めていますが、めざす姿に向けては遅れていると考えます。

<今後の取り組みの方向性>

今後は、一流に触れるための取り組みをとおして市民の文化・スポーツへの関心をさらに高めるとともに、実践英語教育等の「子どもたちの学力向上」に向けた取り組み、「子どもたちの夢探しを応援する」など各施策に取り組んでいきます。

約束5〔健康〕

めざす姿：“赤ちゃんから高齢者まで”の命と暮らしの安心・安全づくりが充実し、市民が健康的な生活を送っています。

指標名	取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24 目標値に 対する 達成率	H25 目標値に 対する 達成率
				H22	H23	H24	H25		
① 健康だと思ふ市民を増やします。	市民 評価 アンケート	%	79.8	81.0	82.0	83.0	85.0	×	-
				76.3	77.8	77.5	-		
② 各種がん検診受診率 平成21年度の基準値 19.1%から5ポイントアップを目指します。	業務 取得	%	19.1	-	-	23.1	24.1	×	-
				21.0	20.8	20.3	-		
③ 育児に自信がもてない人ゼロを目指します。ただし、計画期間では平成21年度の基準値 8.0%から2ポイント減の6.0%とします。	業務 取得	%	8.0	7.5	7.0	6.5	6.0	○	○
				6.9	6.4	5.8	-		
④ 自殺者数ゼロを目指します。ただし、計画期間では48人以下とします。(内閣府 自殺総合対策大綱目標値に準じて設定)	業務 取得	人	58	55	52	50	48	○	○
				39	31	39 (当市調べ)	-		
⑤ 自立して生活できる高齢者の割合(身の回りのことが自分でできる高齢者の割合)79.4%を目指します。	業務 取得	%	79.2	79.2	79.2	78.9	79.4	×	-
				78.9	78.7	78.4	-		
⑥ 生きがいを持っている60歳以上の市民を増やします。	市民 評価 アンケート	%	62.7	62.9	63.1	63.3	63.5	○	○
				68.7	68.7	74.2	-		
⑦ 一般の民間企業における雇用障がい者数の割合1.83%を目指します。	業務 取得	%	1.71	1.74	1.77	1.80	1.83	○	○
				1.96	1.90	1.88	-		
【参考】AP2013 指標 一般の民間企業における雇用障がい者数の割合2.00%を目指します。	業務 取得	%	1.71	1.74	1.77	1.80	2.00	/	/
				1.96	1.90	1.88	-		

※ 凡例 H24 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない -:判断できない
H25 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み -:目標を達成できない・判断できない
※ 平成25年度弘前市アクションプラン自己評価報告書より

<取組状況>

平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が4項目、「目標を達成できない」が3項目となっており、一定程度進んでいると判断できます。

総合的に勘案すると、生きがいを持っている60歳以上の市民は増加傾向にありますが、その他の項目については、年度別の現状値が低下傾向にあることから、めざす姿の達成に向けては遅れていると考えます。

<今後の取り組みの方向性>

今後は、命と暮らしの安心・安全づくりを目指して、「長期的展望による健康教育」、「健康づくりや介護予防」などの施策に加え、「働き盛り世代の健康増進」に重点を置いた取り組みを推進し、全世代による健康寿命の長寿化を図るなど、各施策に取り組んでいきます。

約束6〔広域連携等〕

めざす姿：弘前市が津軽地域の中核的な役割を担い、近隣市町村と医療、公共交通、観光などの分野で互いに連携・協力することにより、地域全体の活性化が図られます。

指標名	取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値				H24 目標値に 対する 達成率	H25 目標値に 対する 達成率
				H22	H23	H24	H25		
① 定住自立圏構想連携施策数14件を目指します。	業務取得	件	0	—	14	14	14	○	○
				—	10	14	—		
【参考】AP2013 指標 定住自立圏構想連携施策数16件を目指します。	業務取得	件	0	—	14	14	16	/	/
				—	10	14	—		
② 定住自立圏圏域市町村をつなぐ公共交通について、持続可能な公共交通体系を構築するため、公共交通路線の見直しを実施します。H24 計画策定後に目標を設定	—	—	—	—	—	—	—	—	—
				—	—	—	—		
【参考】AP2013 指標定住自立圏圏域市町村をつなぐ公共交通路線数 26 路線の維持を目指します。	業務取得	路線	26	—	—	26	26	/	/
				—	—	26	—		
③ 定住自立圏圏域の観光入込客数810万人を目指します。(約10%増)	業務取得	万人	735.4	—	—	730	810	—	—
				735.4	655.9	—	—		
④ 定住自立圏圏域の人口10万人当たりの医師数287.5人の維持を目指します。	業務取得	人	287.5	—	—	287.5	287.5	○	—
				287.5	302.9	302.9	—		
⑤ 3市町村の合併をして不満である(どちらかと言えば不満+不満)市民の割合を、10%に減らします。(3.8%減)	市民評価アンケート	%	13.8	—	—	11.9	10.0	○	—
				13.8	11.1	10.7	—		

※ 凡例 H24 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない —:判断できない
H25 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み —:目標を達成できない・判断できない
※ 平成 25 年度弘前市アクションプラン自己評価報告書より

＜取組状況＞

平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が3項目、「判断できない」が2項目であることから進んでいると判断できます。

総合的に勘案すると、弘前市が津軽地域の中核的な役割を担い、近隣市町村との連携・協力による地域全体の活性化に向けて、おおむね順調に推移しているものと考えます。

＜今後の取り組みの方向性＞

今後は、さらなる圏域市町村の行政サービスの効率化を図るため、「定住自立圏構想における連携事業の推進」に取り組むとともに、市民意識に配慮した「合併戦略プロジェクト」など各施策に取り組んでいきます。

約束7〔市役所の仕事力〕

めざす姿：前向きに取り組む職員の育成により、市民ニーズの的確な把握やサービスの向上が図られ効率的・効果的な行政運営が実現しています。

指標名	取得方法	単位	基準値	上段：年度別目標値 下段：年度別現状値 ※()書きは「わからない」の回答を除いた場合				H24 目標値に 対する 達成率	H25 目標値に 対する 達成率
				H22	H23	H24	H25		
① エリア担当制度による、町会等からの意見や要望等を措置した割合100%を目指します。	業務取得	%	-	-	100	100	100	○	-
				-	99.6	100	-		
② ボランティア・地域活動に参加している職員の割合70%を目指します。	業務取得	%	48.0	53.0	60.0	65.0	70.0	×	-
				55.1	55.7	46.1	-		
③ 市の施策や事業、各種市民サービスの市民満足度を高めます。	市民評価アンケート	%	69.0	-	-	73.0	75.0	○	○
				69.0	76.4	75.5	-		
④ 職員の仕事ぶりの市民満足度を高めます。	市民評価アンケート	%	63.1	67.0	68.0	69.0	70.0	×	-
				55.2 ※(59.1)	62.6 ※(66.9)	61.2 ※(65.5)	-		
⑤ 職員の窓口対応に対する市民の不満を解消していきます。	市民評価アンケート	%	17.9	15.0	13.0	12.0	10.0	×	-
				16.4	12.8	13.3	-		
⑥ 財政調整基金(※48)は、計画期間を通じて20億円を維持します。	業務取得	億円	20	20	20	20	20	○	○
				26	29	30	-		
⑦ 地方債の繰上償還及び計画的な借入により、実質公債費比率12.4%を目指します。	業務取得	%	13.1	-	-	13.0	12.4	○	-
				13.1	12.3	11.2	-		

※ 凡例 H24 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み ×:目標を達成できない -:判断できない
H25 目標値に対する達成率 ○:目標を達成済み -:目標を達成できない・判断できない
※ 平成25年度弘前市アクションプラン自己評価報告書より

＜取組状況＞

平成24年度の目標値に対する達成率は、「目標を達成済み」が4項目、「目標を達成できない」が3項目となっており、達成率は高いといえない状況にあります。

総合的に勘案すると、財政健全化の取り組みとして、地方債現在高(借金)を3年間で121億円減額、基金現在高(貯金)は3年間で15億円増額したほか、駅前再開発ビル3・4階フロアにオープンした多機能行政施設「ヒロロスクエア」の設置など各施策等の取り組みに一定の成果が見られることから、めざす姿に向け着実に近づいていると考えます。

＜今後の取り組みの方向性＞

今後は、市民感覚や民間手法を取り入れ、「行政ニーズの高度化や多様化に適應する職員の育成」や、市職員の能力を最大限発揮させ、市民、コミュニティ、民間事業者、行政等が一体となった「オール弘前」による地域づくりを推進するなど、各施策に取り組んでいきます。

2. 弘前市が持つ地域資源

■ 弘前市が持つ様々な地域資源

弘前市は、様々な地域資源に恵まれた、魅力あふれるまちです。

株式会社ブランド総合研究所が行った「地域ブランド調査 2013」によれば、市町村の魅力度ランキングにおいて、弘前市は東北地域で宮城県仙台市に次ぐ2位の位置にあるとされています。これからの地域づくりにおいても、様々な地域資源を戦略的に活用し、弘前市の魅力を高めていくことが求められます。

■ 歴史・伝統・文化資源

弘前のまちは、慶長16年（1611）の築城に始まり、弘前藩の城下町として、古くからこの地域の政治・経済・文化の中心となって繁栄してきました。この400年あまりの歴史の中で育まれた伝統・文化は、地域のアイデンティティとして強く根付いており、弘前の持つ様々な魅力の源泉となっています。

弘前には多数の文化財があり、「弘前ねぶたまつり」や「岩木山のお山参詣」などの無形のものを含め、国の指定・選定等の文化財は54（平成25年12月1日現在）となっています。県・市の指定するものも含めると252の有形無形の文化財があり、それぞれがこの地域の豊かな歴史・物語を伝えています。

また、津軽塗やこぎん刺し、ブナコなどといった伝統工芸は、津軽の昔ながらの生活や地域性を色濃く反映した風合いを持つ、高度な技術を要する洗練された工芸品として、内外から高い評価を受けています。さらに、全国的に有名な津軽三味線や津軽民謡といった伝統芸能も地域住民によって受け継がれており、高い文化水準を誇っています。

■ 観光資源

平成23年に築城400年の節目を迎えた弘前城（弘前公園）は、さくらをはじめ全国有数の観光名所として名高く、毎年4月下旬から5月上旬に開催される「弘前さくらまつり」には、全国から200万人以上の観光客が訪れます。また、弘前城跡の周辺には、藩政時代に由来する寺社建築や明治・大正期の洋風建築が多数残り、そうした歴史的建造物が形成する風情ある街並みも観光資源のひとつとなっています。

また、「弘前ねぶたまつり」「弘前城菊と紅葉まつり」「弘前城雪燈籠まつり」といった四季それぞれに季節感ある大規模なイベントが行われており、年間400万～500万人の観光客で賑わいます。

さらに、登録から20周年を迎えた世界自然遺産の白神山地や、古くから津軽に豊かな恵みをもたらしてきた岩木山といった自然環境のブランド力も高く、百沢温泉や嶽温泉といった保養地もあるなど、多面的な観光資源を有する地域となっています。

■ 農林資源

弘前市はりんごの生産量日本一を誇るりんごのまちとして全国的にも有名です。また、弘前が位置する津軽平野は青森県で最大の穀倉地帯であり、戦前戦後を通じ主要な食料産地としての役割を担ってきました。

現在の市の産業構造は、域内総生産額及び就業人口ともに第3次産業の占める割合が高くなっていますが、第1次産業の比率は全国及び県と比較して高い水準にあり、農業のまちとしての強みを持っています。

基幹農産物であるりんごは、果樹としてだけでなく、ジュース、アップルパイ、ジャム、シードル、ブランデーといった付加価値の高い加工品として幅広く展開されています。また、りんご以外にも主食用米である「つがるロマン」や酒造米として「華想い」の作付のほか、「嶽きみ」「清水森ナンバ」「けの汁」「津軽そば」など津軽独特の農産物や郷土料理も豊富にあります。

■ 医療・介護資源

弘前市には高度救命救急センターを擁する弘前大学医学部附属病院をはじめとする総合病院が多数集積しており、医療機関・病床も多く、青森県における高度医療・介護拠点となっています。

保健医療圏でみると、圏外の市町村からも多数の入院患者が流入しております。（平成23年度青森県受療動向調査）

津軽地域保健医療圏では、療養・一般病床数は3,708床（平成25年1月1日青森県調査）と確保すべき基準病床3,025床を上回っており、人口10万人あたりの医療施設従事医師数が283.9人（青森県182.4人、全国219.0人）と高い地域となっています。（青森県保健医療計画：平成25年4月）ただし、救急医療等を担う病院に従事する医師は充足しているとはいえません。

また、介護保険施設の整備状況は、青森、八戸圏域と比べても非常に高く、人口や産業構造が類似の高齢化率が同程度の都市との比較においても、各種介護サービスを提供する事業所数は上位となっております。しかし介護資源充実の一方で、要介護認定率の上昇などにより、介護保険第1号被保険者保険料が高額なものとなっております。このような中で、医療・介護事業に従事する女性（20～64歳）の割合は全産業の2割を超えるなど、市の産業構造の大きな割合を占めています。

■ 教育資源

弘前市は高等教育機関が集積し、青森県のみならず北奥羽の学術拠点となっています。市内には6つの大学（4年制大学4、短期大学2）が設置されており、その総学生数・教職員数は約12,000名にも及び、弘前市の人口比の約6パーセント以上に当たります。

各高等教育機関では、市民向けの公開講座を多数実施するなど、その知的資源を活かした地域貢献活動が展開されています。また、各高等教育機関と弘前市との連携による取り組みも行われています。平成19年には、各高等教育機関が持つ研究成果などの知的資源及び学生などの人的資源を地域社会に活かすため、市内の6大学によって「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」が設立され、加盟大学の学生を対象とした「共通授業」が実施されるなどの新たな試みも展開されています。

■ 人的資源

弘前市では、長い歴史に根付いた高い文化水準を誇るまちであることを背景に、国内外で活躍する人材を数多く輩出してきました。全国的に有名な文化人としては、工藤甲人氏（伝統的題材に囚われることない独自の世界を追求し、日本画の新境地を開拓したとして高く評価）、寺山修司氏（劇作家、演出家、映画監督、小説家、作詞家、脚本家、評論家等として前衛的な文芸作品を数多く創

作)などが本市出身者として知られています。

また、スポーツ・科学分野などでも国内外で活躍された方々も多く、近年でも、齋藤春香氏(北京オリンピック大会におけるソフトボール日本代表監督として、チームの金メダル獲得に貢献)、三浦雄一郎氏(プロスキーヤーや冒険家として、数々のチャレンジをし、世界最高峰のエベレストに80歳7ヶ月という世界最高齢で登頂)、川口淳一郎氏(プロジェクトリーダーとして、小惑星「イトカワ」から7年の歳月を経て、小惑星探査機「はやぶさ」を帰還させるという世界初の快挙を達成)など、多方面にわたります。

3. 弘前市経営計画の策定体制

■ 新しい弘前市総合計画策定市民会議

新しい弘前市総合計画の策定にあたって、20年先の弘前市のめざす姿・将来像の提案や、その実現のための市民の行動方針などの提案をしていただくために設置した、35名の市民から構成される市民会議です。

■ 構成員名簿

氏名	ふりがな	氏名	ふりがな	氏名	ふりがな
相内 英之	あいない ひでゆき	齋藤 輝江	さいとう てるえ	西澤 肇	にしざわ はじめ
青山 富士子	あおやま ふじこ	笹 郁子	ささ いくこ	藤田 俊彦	ふじた としひこ
阿部 精一	あべ せいいち	佐々木 真	ささき まこと	藤田 美代子	ふじた みよこ
一條 敦子	いちじょう あつこ	佐藤 ツヨ	さとう つよ	藤田 善明	ふじた よしあき
大湯 恵津子	おおゆ えつこ	鹿内 葵	しかない あおい	三浦 彩乃	みうら あやの
尾田 望	おだ のぞみ	須藤 龍哉	すどう りゅうさい	三浦 一雄	みうら かずお
葛西 キ又工	かさい きぬえ	清野 真理子	せいの まりこ	三上 隆博	みかみ たかひろ
葛西 智恵美	かさい ちえみ	高橋 貴志	たかはし たかし	三上 昇	みかみ のぼる
笠井 直樹	かさい なおき	田中 雄大	たなか ゆうだい	村上 美栄子	むらかみ みえこ
鎌田 法丈	かまた のりたけ	田村 眞裕美	たむら まゆみ	山本 重	やまもと しげる
川村 正樹	かわむら まさき	千葉 一利	ちば かずとし	若林 一哉	わかばやし かずや
工藤 貴久	くどう たかひさ	名越 しおり	なこし しおり		

(50音順)

■ 活動の記録

会議	概要	会議	概要
第1回	◇平成25年7月20日(土曜日) ◇土手町コミュニティーパーク ◇内容 1 市長講演 「弘前市の新たな経営計画の策定に向けて」 2 ワークショップ 20年後に向けて、今後弘前市が地域全体で取り組んでいくことについて検討	第4回	◇平成25年9月28日(土曜日) ◇ヒロロ4階弘前市民文化交流館ホール ◇内容 1 ワークショップ 弘前市の20年後の将来都市像(案)の実現に向けて 「市民や地域、民間事業者が主体となって取り組むべきこと・課題」の洗い出し
第2回	◇平成25年8月10日(土曜日) ◇土手町コミュニティーパーク ◇内容 1 ワークショップ (1) 第一回ワークショップの振り返り (2) 「弘前市が目指すべき将来のまちの姿(将来都市像)」の洗い出し (3) 意見のとりまとめ 2 検討結果の振り返り(発表)	第5回	◇平成25年10月19日(土曜日) ◇ヒロロ4階弘前市民文化交流館ホール ◇内容 1 ワークショップ (1) 第4回議論の確認 (2) 市民による具体的な取り組み・目標の洗い出し (3) 意見の取りまとめ
第3回	◇平成25年8月24日(土曜日) ◇ヒロロ4階弘前市民文化交流館ホール ◇内容 1 市長との意見交換	第6回	◇平成25年11月2日(土曜日) ◇ヒロロ4階弘前市民文化交流館ホール ◇内容 1 市への提言のとりまとめ 2 市長への提言

■ 弘前市総合計画審議会

弘前市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための計画の策定のために、市長の諮問に応じ、必要な事項を審議するために条例に基づき設置するものです。

■ 弘前市総合計画審議会条例

平成 19 年 3 月 23 日

弘前市条例第 1 号

改正 平成 25 年 3 月 22 日弘前市条例第 1 号

(設置)

第 1 条 本市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための計画（以下「総合計画」という。）の策定に資するため、弘前市総合計画審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 審議会は、市長の諮問に応じ、総合計画を審議する。

2 審議会は、総合計画について必要があると認めるときは、市長に意見を述べることができる。

(委員)

第 3 条 審議会は、委員 45 人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 弘前市議会の議員
- (2) 学識経験を有する者
- (3) 公共的団体等の役員及び職員
- (4) 関係行政機関の職員
- (5) その他市長が必要と認める者

3 第 2 項第 1 号、第 3 号及び第 4 号に掲げる者のうちから委嘱された委員が、当該機関の職を失ったときは、委員の職を失うものとする。

4 委員の任期は、4 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

(会長)

第 4 条 審議会に会長を置き、会長は、委員の互選により定める。

2 会長は、会議の議長となり、会務を総理する。

3 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長の指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第 5 条 審議会の会議は、会長が招集する。ただし、審議会が新たに組織された場合の最初の会議は、市長が招集する。

2 審議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第6条 審議会の庶務は、経営戦略部行政経営課において処理する。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関して必要な事項は、市長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(弘前市報酬費用弁償等の額及びその支給方法条例の一部改正)

2 弘前市報酬費用弁償等の額及びその支給方法条例(平成18年弘前市条例第36号)の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

附 則(平成25年3月22日弘前市条例第1号)

この条例は、公布の日から施行する。ただし、第6条の改正規定は、平成25年4月1日から施行する。

■ 弘前市総合計画審議会委員

区分	氏名	所属・職名
第2号 学識経験を 有する者	檜 貢	弘前大学大学院地域社会研究科長
	村松 惠二	弘前大学人文学部教授
	生島 美和	弘前学院大学文学部講師
第3号 公共的団体等の 役員及び職員	阿部 精一	弘前市社会教育協議会会長
	齋藤 順司	弘前市連合父母と教師の会副会長
	中村 得仁	弘前市保育研究会会長
	淀野 啓	一般社団法人弘前市医師会副会長
	三上 弘文	社会福祉法人弘前市社会福祉協議会会長
	清野 眞由美	特定非営利活動法人 弘前子どもコミュニティびーぷる代表理事
	成田 文英	公益財団法人弘前市体育協会専務理事
	西澤 幸清	つがる弘前農業協同組合代表理事組合長
	工藤 茂起	弘前商工会議所専務理事
	北村 裕志	公益社団法人弘前観光コンベンション協会副会長
	鈴木 明弘	公益社団法人弘前市物産協会副会長
	佐藤 譲	公益社団法人弘前青年会議所理事長
	福土 竹廣	弘前市町会連合会副会長
山本 喜久	弘前地区女性会副代表	
第5号 その他市長が必 要と認める者	青山 富士子	市民会議委員
	三上 隆博	市民会議委員
	名越 しおり	市民会議委員

【H26.2.26 現在】

弘行発第349号
平成25年12月18日

弘前市総合計画審議会
会長 檜 貢 様

弘前市長 葛西 憲之

新しい弘前市総合計画について（諮問）

本市では、平成20年2月に策定した弘前市基本構想とともに、平成22年10月に策定した「弘前市アクションプラン2010」、そして、これを毎年改訂し、「子ども達の笑顔あふれる弘前」の実現に向け取り組みを進めてまいりました。

今後、人口減少、超高齢化などの社会環境の変化が見込まれる中で、持続的発展を目指し市と市民が共有する新たな弘前市総合計画を策定したいと考えますので、弘前市総合計画審議会条例第2条の規定に基づき、貴審議会の意見を求めます。

■ 答申書

平成 26 年 4 月 25 日

弘前市長
葛西 憲之 殿

弘前市総合計画審議会
会長 檜 貢

新しい弘前市総合計画について（答申）

平成 25 年 12 月 18 日付け弘行発第 349 号により諮問のあった新しい弘前市総合計画については、本審議会は下記のとおり答申します。

記

- ・弘前市経営計画案（別添のとおり）

以上

■ 活動の記録

会議	概要	会議	概要
第1回	◇平成 25 年 12 月 18 日（水曜日） ◇弘前図書館 2 階 視聴覚室 ◇内容 1 委嘱状交付 2 市長挨拶 3 組織会 (1)会長選出 (2)会長職務代理者の氏名 4 諮問書提出 5 議事 (1)弘前市総合計画審議会の役割等について (2)弘前市総合計画審議会開催予定について (3)策定に係る参考資料について 世論調査結果 (4)諮問資料について (仮称)弘前市経営計画（案）	第4回	◇平成 26 年 2 月 18 日（火曜日） ◇弘前市立観光館 2 階 研修室 ◇内容 1 前回議事概要について 2 (仮称)弘前市経営計画（案） 第 3 章 「2.将来都市像の実現に向けた戦略」 について
第2回	◇平成 26 年 1 月 15 日（水曜日） ◇弘前市立観光館 2 階 研修室 ◇内容 1 前回議事概要について 2 (仮称)弘前市経営計画（案）第 2 章に ついて	第5回	◇平成 26 年 3 月 3 日（月曜日） ◇弘前地区消防事務組合 消防本部 3 階大会議 室 ◇内容 1 前回議事概要について 2 (仮称)弘前市経営計画（案） (1)将来都市像の実現に向けた戦略 「戦略推進システム」について (仮称)弘前市経営計画経営戦略体系（案） (2)「市民行動プログラム」について (3)第 4 章「経営計画のマネジメント」に ついて (4)第 6 章「土地利用の基本方針」について
第3回	◇平成 26 年 1 月 31 日（金曜日） ◇弘前市立観光館 2 階 研修室 ◇内容 1 前回議事概要について 2 (仮称)弘前市経営計画（案）第 3 章に ついて	第6回	◇平成 26 年 3 月 19 日（水曜日） ◇弘前図書館 2 階 視聴覚室 ◇内容 1 前回議事概要について 2 (仮称)弘前市経営計画素案について

■ 弘前市総合計画策定会議

アクションプランに基づくこれまでの取り組み等を踏まえ、弘前市の現状、課題、政策体系を検討しまとめるために設置した、市の職員からなる会議です。

■ 弘前市総合計画策定会議規則

(設置)

第1条 本市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための計画（以下「総合計画」という。）を作成するため、弘前市総合計画策定会議（以下「策定会議」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 策定会議は、次の事務を処理する。

- (1) 総合計画の作成に関すること。
- (2) 総合計画の作成のため必要と認められる事項の連絡及び調整に関すること。

(組織)

第3条 策定会議は、議長、参与及び委員をもって組織する。

2 議長は副市長を、参与は教育長をもって充てる。

3 委員は、職員のうちから市長が指名する。

4 委員に事故があるとき又は委員が不在のときは、あらかじめ委員の指名する職員がその職務を代理する。

(議長)

第4条 議長は、会務を総理する。

2 議長に事故があるとき又は議長が不在のときは、あらかじめ議長の指名する委員がその職務を代理する。

(参与)

第5条 参与は、総合計画の作成に当たり、専門的事項について意見を述べる。

(会議)

第6条 策定会議の会議は、必要に応じて議長が招集する。

(部会の設置)

第7条 策定会議に、専門的調査、総合計画案の作成等を行わせるため、部会を置くことができる。

(部会の組織)

第8条 部会は、部会長及び部会員をもって組織する。

2 部会長は、策定会議の委員のうちから議長が指名する。

3 部会員は、職員のうちから議長が指名する。

4 部会員に事故があるとき又は部会員が不在のときは、あらかじめ部会員の指名する職員がその職務を代理する。

(部会長)

第9条 部会長は、議長の指揮のもとに部会を統括する。

2 部会長に事故があるとき又は部会長が不在のときは、あらかじめ部会長の指名する部会員がその職務を代理する。

(部会の会議)

第10条 部会の会議は、必要に応じて部会長が招集する。

(庶務)

第11条 策定会議の庶務は、経営戦略部行政経営課において処理する。

(委任)

第12条 この規則に定めるもののほか、策定会議の運営に関して必要な事項は、議長が定める。

■ 構成員名簿

策定会議議長 副市長 蛭名 正樹 参与 教育長 佐藤 紘昭
議長職務代理者 経営戦略部長 山本 昇

委 員			
職 名	氏 名	職 名	氏 名
経営戦略部長	山本 昇	都市環境部長	澤頭 潤
財務部長	五十嵐 雅幸	岩木総合支所長	藤田 稔
市民文化スポーツ部長	蒔苗 貴嗣	相馬総合支所長	佐々木 衛
健康福祉部長	小田 実	市立病院事務局長	櫻田 靖
健康福祉部理事兼福祉事務所長	花田 昇	会計管理者	平尾 洋
農林部長	佐藤 耕一	上下水道部長	工藤 富市
商工振興部長	川村 悦孝	教育部長	野呂 雅仁
観光振興部長	高木 伸剛	農業委員会事務局長	山田 寿嗣
建設部長	山形 恵昭	経営戦略部理事 (津軽広域水道事業団事務局長兼津軽事業部事業部長)	泉谷 雅昭

■ 活動の記録

会議	概要	会議	概要
第1回	◇平成 25 年 5 月 27 日（月曜日） ◇市役所本庁 2 階特別会議室 ◇内容 1 策定会議組織会 2 策定方針及び今後のスケジュールについて	第4回	◇平成 25 年 12 月 9 日（月曜日） ◇市役所本庁 2 階特別会議室 ◇内容 1 （仮称）弘前市経営計画（案）について
第2回	◇平成 25 年 7 月 3 日（水曜日） ◇市役所本庁 2 階特別会議室 ◇内容 1 新しい弘前市総合計画の構成案について 2 策定会議部会の設置について 3 策定会議部会の進め方について	第5回	◇平成 26 年 1 月 10 日（金曜日） ◇市役所本庁 2 階特別会議室 ◇内容 1 （仮称）弘前市経営計画（案）について
第3回	◇平成 25 年 11 月 13 日（水曜日） ◇市役所本庁 2 階特別会議室 ◇内容 1 （仮称）弘前市経営計画（案）について 2 今後のスケジュールについて	第6回	◇平成 26 年 3 月 17 日（月曜日） ◇市役所本庁 2 階特別会議室 ◇内容 1 （仮称）弘前市経営計画（案）について 2 弘前市総合計画審議会で出された意見 3 今後のスケジュール

4. 新しい弘前市総合計画策定市民会議提言書

弘前市の20年後の将来都市像（めざす姿）

■ 将来都市像（めざす姿）

弘前市は、白神山地などの豊かな自然がもたらす恵みや400年の歴史と伝統に培われた文化を背景として、観光のまち、りんごに代表される農業のまち、伝統工芸などを産み出すものづくり産業のまち、高等教育機関が集積する学都であるとともに医療の充実したまちなど多くの特徴を持つまちです。

また、弘前市は、津軽地域の中心市としての役割を担うまちでもあります。

このような特徴を背景に、文物、歴史的遺産などのアドバンテージをさらに磨き上げ、活かしていくことで、外部環境の変化に惑わされない、弘前独自のライフスタイルを作り上げることができる可能性をもっています。

弘前市は、この独自性を活かし、行政や市民、地域、民間事業者が互いに連携し、オール弘前で地域経営を行なっていきます。そのためには、弘前という地域を将来どのような姿にしていくのか、その地域づくりの理念・目標を定め、計画に関わる各主体で共有することが必要です。

本計画では、地域づくりの理念・目標を「弘前市の20年後の将来都市像（めざす姿）」として計画の中に位置づけ、次のように定めます。

弘前市の20年後の将来都市像(めざす姿)

子どもたちの笑顔
あふれるまち 弘前

■ 将来都市像に込めた思い

人口減少・超高齢社会の到来など、弘前市をとりまく社会経済の将来的な見通しは非常に厳しいものと予想されます。しかしそうした厳しい状況の中でも、私たちには、先人たちによって培われた郷土の歴史や魅力、様々な財産を、次世代へ引き継いでいく責任があります。

地域の持続性・自立性、豊かさを守るためには、生活を支える安定した社会基盤の構築と、他都市に負けない活力・競争力の高い地域をつくりあげることに、私たち一人ひとりが努めていかなければなりません。

「子どもたちの笑顔あふれるまち」という言葉には、こうした現在と未来の弘前へ希求する想いが込められています。

子どもたちの笑い声が地域に響きわたり、笑顔で楽しく過ごしていることは、地域の持つ魅力や豊かさが高まり、隅々まで行き渡っていることを表しています。

子どもたちの笑顔は、その地域の安心感、そして活力をうつす鏡であり、子どもからお年寄りまですべての世代の人たちの生活の豊かさを象徴するものです。

弘前をそんな「子どもたちの笑顔あふれるまち」にする、その決意をもって、私たちはこの将来都市像を掲げます。

■ 地域づくりの4つの観点

地域づくりとは、地域に生活する人々の元気、暮らしぶりの豊かさ、営み（生業）の活発さ、街の住みやすさといった、その地域を構成する要素の価値や魅力を高めていく諸活動を指します。

「子どもたちの笑顔あふれるまち 弘前」という将来都市像を実現するためには、「ひとづくり」「くらしづくり」「なりわいづくり」「まちづくり」といった地域づくりを構成するそれぞれの観点から、総合的に進めていくことが必要です。



< 地域づくりを構成する4つの要素と観点 >

したがって、この「ひとづくり」「くらしづくり」「なりわいづくり」「まちづくり」の観点からも、それぞれの理念・目標となる将来都市像（めざす姿）を次の様に掲げます。

■ ひとづくり

郷土への愛に裏打ちされた自立心を持つ 多様・多才な「弘前人」が躍動するまち

- ・子どもたちがのびのびと健やかに、夢に向かって育っている
- ・郷土への愛と自立心を持った人材が、地域の抱える様々な課題を解決している
- ・個性や多様性を尊重する気風を備え、国際的に通用する力を持った人材であふれている

■ 暮らしづくり

郷土の豊かな歴史や伝統・文化に囲まれ 生き活きと安心して暮らせるまち

- ・長い歴史の中で育まれた郷土の伝統・文化を尊重し、その豊かさが将来にわたって継承されている
- ・だれもが自分自身の持てる力を生き活きと発揮し、健康に暮らしている
- ・事故や災害への対応力があり、安全・安心に暮らせる環境が整えられている

■ なりわいづくり

高い競争力を持った地域産業が育ち 多くの人々が訪れ楽しめるまち

- ・グローバル経済の中でも通用する産業競争力を持ち、豊かな生活を維持するための所得を得ることができている
- ・地域の資源を活かす技術力を高め、確固たる産業基盤が保たれている
- ・次世代を思い多角的な農産物の生産を可能とする態勢が整備されている
- ・市内外の多くの人々がまちに訪れ、まちの活気が地域内に循環している
- ・老若男女がそれぞれの生活スタイルに合わせ、生き活きと働いている

■ まちづくり

雪に克ち、古さと新しさが交わる 魅力とやさしさにあふれるまち

- 必要な都市機能が拠点ごとに集約され、拠点を結ぶ公共交通が確保されている
- 豪雪をはじめとした災害に強く、被害が最小限に抑えられている
- 豊かな自然環境と清潔・魅力的な都市生活環境が保たれている
- 自然エネルギーが積極的に活用され、地域内の生活需要が満たされている
- 誰もが快適に、安心して暮らせる優しさが保たれている

(仮称)弘前市経営計画 オール弘前 スタートアッププログラム

平成25年11月2日(土)

オール弘前スタートアッププログラムの位置づけ

弘前市が掲げる将来都市像である「子ども達の笑顔あふれるまち 弘前」を実現するためには、行政と市民等が目標、情報を共有し、これまでの協働の考え方を進化させ、行政、市民等がそれぞれの立場で役割を果たしていくことが大切です。

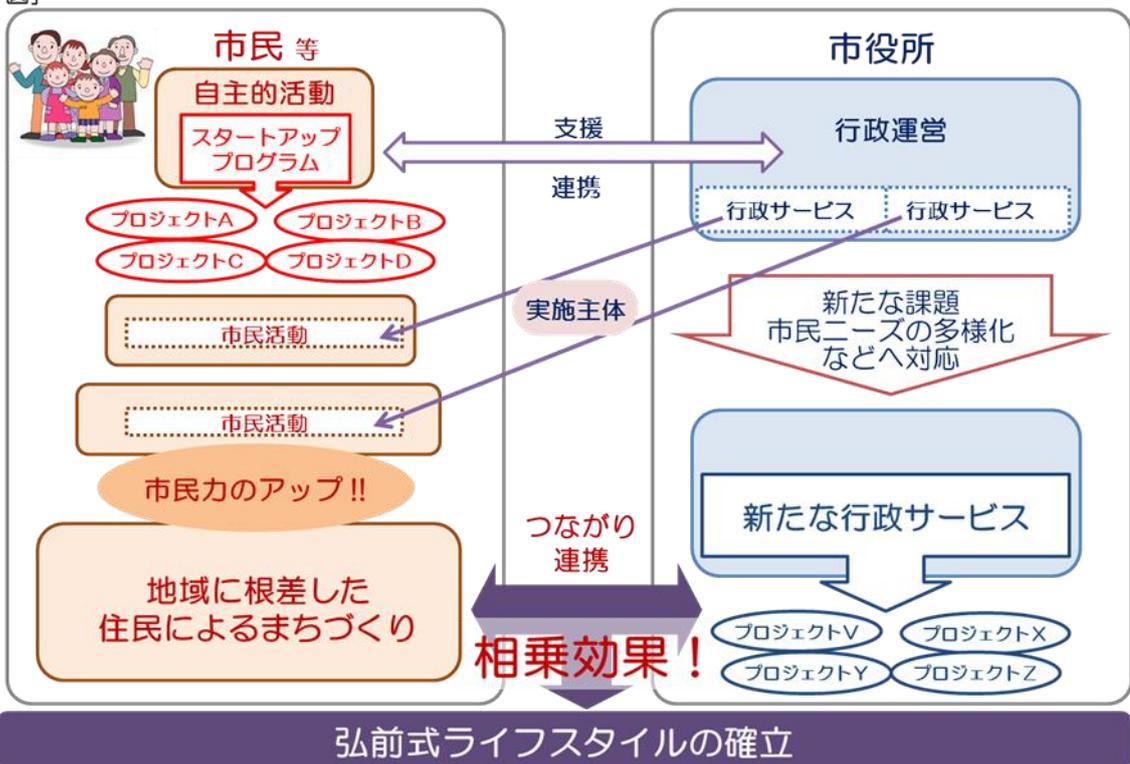
そのために、市民等による取り組みをオール弘前スタートアッププログラムとしてまとめ、20年後の弘前市の将来に向けて第一歩を踏み出すものです。

オール弘前スタートアッププログラムを、弘前市経営計画の中で、行政が主体となり展開する政策・施策とともに基本戦略体系に位置づけ、計画推進の両輪とし市政発展を目指すものです。

オール弘前スタートアッププログラムに掲げる各プロジェクトを、市民力を主体に推進することにより、行政が主体となり展開する政策・施策の効果、効率が高まるとともに、社会経済情勢の変化などの新たな課題、ニーズに対応する行政の取り組みを促進するなどの相乗効果を生み、市の持続的な成長を図ろうとするものです。

[イメージ図]

2014年



2033年

20年後の弘前市の将来像
(めざす姿)

ひとづくり

<新しい弘前市総合計画策定市民会議 提言>

① “弘前愛”の育み勉強会

誰と	郷土の研究者、学識者など
誰に	子どもや若い世代
何を	弘前市の歴史、文化など
どのように	公民館などを使って伝承
指標	● 子どもや若い世代の参加人数
波及効果	● 弘前の発展・課題解決に取り組む

ひとづくり

② がんばる弘前人応援団

誰と	市民団体、NPOなど
誰に	活躍している団体、個人など
何を	応援
どのように	試合観戦や活動支援(寄付など)をする
指標	● 団員数
波及効果	● 市全体の一体感が生まれる ● 子ども達が夢をもつようになる

ひとづくり

③ 子どもを守るあいさつ運動

誰と	地域の大人たち
誰に	地域の子ども
何を	子ども達の安全
どのように	あいさつ運動を実施する
指標	● 子どもの被害件数
波及効果	● 地域の連帯感が生まれる ● 子育てに関心が高まる

くらしづくり

① 活気あふれる地域づくり

誰と	地区の町会、PTAなど
誰に	地域住民
何を	地域活動
どのように	多くの住民に参加してもらう
指標	● 住民参加人数
波及効果	● 地区単位の連帯感が生まれる ● 自助・互助・共助の意識が高まる

くらしづくり

② 地域ぐるみの防災

誰と	地区の町会、消防団など
誰に	地域住民(各家庭)
何を	災害時の備えや避難
どのように	家庭の備えや避難訓練の実施
指標	● 避難訓練回数
波及効果	● 安心して暮らせる ● 自助・互助・共助の意識が高まる

③ 健康いきいき長生き運動

誰と	医療機関、保健衛生委員など
誰に	地域住民
何を	生活改善や健診(検診)など
どのように	実践・受診してもらう
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 健診受診率 ● がん検診受診率
波及効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 生き生き前向きに暮らせる ● 社会参加する高齢者が増える

① 美味くて安心！地産地消運動

誰と	生産者、販売者など
誰に	住民
何を	地元産農産物
どのように	いまより多く買ってもらう
指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業所得
波及効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域産業の活性化 ● 地域資源の活用 ● 地域の自立力が高まる

なりわいづくり

② 弘前の魅力発信運動

誰と	観光団体、NPO、市民団体など
誰に	住民、事業者
何を	弘前の魅力
どのように	SNSなどを通して県外に情報発信してもらう
指標	● 観光入込客数
波及効果	● 地域産業の活性化 ● 認知度アップ ● 地域の自立力が高まる

なりわいづくり

③ 弘前おもてなし運動

誰と	観光団体、NPO、市民団体など
誰に	住民、事業者
何を	旅行者へのおもてなし
どのように	ノウハウの提供と意識の醸成をする
指標	● 観光入込客数
波及効果	● 弘前へのリピーターが増える ● 地域ブランド力がアップする

まちづくり

① 生ゴミ減量作戦

誰と	町会、事業者団体など
誰に	住民、事業者
何を	生ゴミ
どのように	正しい生ゴミの出し方を広め実践してもらう
指標	● ゴミ排出量
波及効果	● 弘前が抱える問題への関心が高まる

まちづくり

② 除雪サポーターズクラブ

誰と	町会、大学生など
誰に	除雪作業ができない高齢者など
何を	屋根雪や間口に寄せられた雪
どのように	連携・協力して除雪する
指標	● ボランティア登録者数・活動回数
波及効果	● 福祉への関心が高まる ● 自助・互助・共助の意識が高まる

③ 季節の色に染めます運動

誰と	観光団体、NPO、市民団体など
誰に	地域住民、事業者など
何を	まちの景観
どのように	季節、イベントを表す色でまちを飾ってもらう
指標	<ul style="list-style-type: none">● 観光入込客数
波及効果	<ul style="list-style-type: none">● まちづくりへの関心が高まる● 地域ブランド力がアップする

